満濃池（まんのういけ）

藩政時代の讃岐の特産品だった塩・砂糖・綿は、讃岐三白と呼ばれていました。何れも温暖で雨の少ない瀬戸内特有の気候の賜物でした。さらに、香川県は山が浅く雨が降ってもすぐに水が海に流出してしまうため、川から農業用水を得ることが困難で昔からため池を築いてこれを補ってきました。香川県内の現在のため池総数は約1万4千余りで、全国のため池総数約22万の7%近くを占めています。

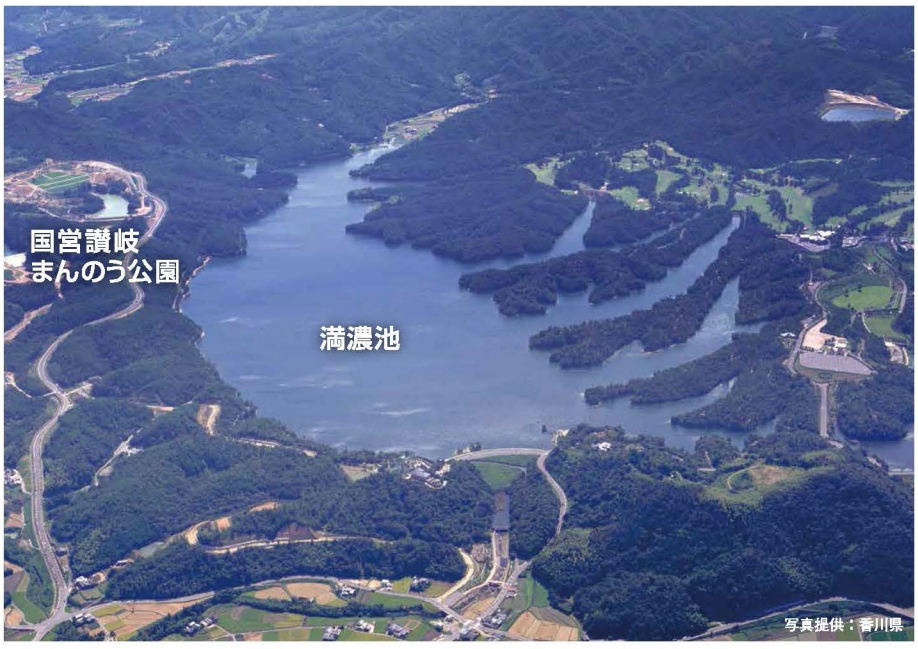
現在の満濃池の貯水量は1,540万tで、農水用ため池としては全国一位の規模を誇っています。

◆受益面積	2市3町　3,000ha			
◆規　　模	形　式	土堰堤アーチ形	満水面積	138.5ha〔甲子園球場(4ha)の35倍〕
	堤　高	32.0m	堤体積	218,000m³
	堤　長	155.8m	貯水量	15,400,000m³

農業用ため池としてわが国最大級の規模を誇る満濃池に関して、有名は「今昔物語」の中に満濃池の龍伝説が書き綴られています。

満濃池の伝説

今は昔、満濃池に住んでいた龍が池辺で小蛇の姿で日なたぼっこしていると、鳶になって餌を求めていた近江の国の比良山の天狗がこれを見つけて捕まえて持ちかえり、比良山の洞に入れました。更に餌を求めつづけた天狗は、京の寺で厠にたった小僧を見つけ、やはりこれを捕まえて持ちかえり龍と同じ洞に入れました。小僧が持っていた水瓶の水を得た小蛇は龍の姿に戻り、洞を破って小僧を助け、京都の町で僧に化けていた天狗を押し倒しました。それからは、天狗の悪さを耳にすることはありませんでした。



写真提供：香川県